

### 平成28年練馬区の結核の状況

#### 〈結核対策の状況〉

患者は平成25年まで徐々に減少し、平成26年は患者・潜在性結核を含め増加しましたが、平成27年には患者・潜在性結核を含め減少していました。平成28年はやや増加しています。

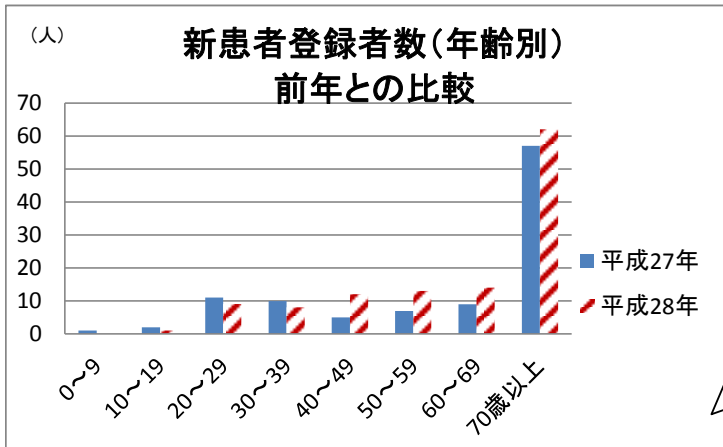
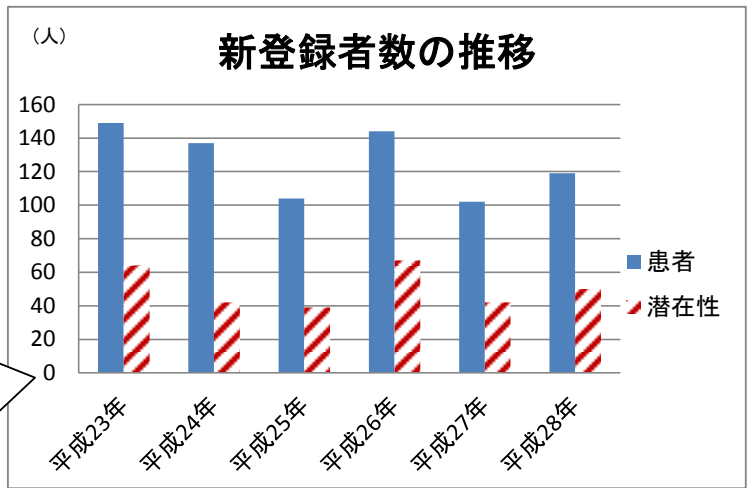
平成28年新規登録患者 119名

- ・肺結核塗抹陽性患者 53名

- ・その他の結核患者 66名

平成28年新規潜在性結核感染症患者 50名

※練馬区の罹患率は、16.4（人口10万人対）となっており、日本では2020年までに10以下にすることを目標としています。



患者数は70歳以上の割合が全体の52%と高くなっています。高齢者の症状は典型的な症状はなく、体重減少や活気の無さといった結核とはわかりにくい症状で現れることが多いです。

39歳までは減少していますが、40歳以上の年代は増加しています。働く世代の患者は、大規模な接触者健診を実施することが増えています。



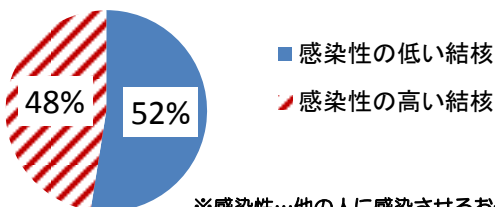
### 結核は過度に怖がる必要はありません！

結核と診断されたすべての患者が、周囲の人に結核を感染させるわけではありません。周囲の人への感染性（感染させるおそれ）のある結核は肺結核ですが、早期発見されれば感染性はほとんどありません。結核の感染している部位や喀痰検査の結果によって、感染性は異なります。

平成28年の新規登録患者のうち約半数は感染性の低い結核でした。この時点で発見されれば、入院治療の必要はなく外来治療で通学や仕事など、これまでの生活を過ごしながら結核の治療を継続することができます。

しかし、診断が遅れると、肺結核の病状が進行し、結核菌を多量に含んだ咳や痰を排出するようになります。他の人に感染させるおそれがある場合や症状が重い場合は、入院治療が必要となってしまいます。そうならないために、早期発見がとても大切です。

#### 平成28年新規登録患者の感染性の有無



#### 感染性の低い結核

痰の検査で結核菌が培養して増やしてようやく見つかる場合や、結核性胸膜炎などの肺外結核の場合です。人に感染させるおそれが低いため、外来で治療することができます。

#### 感染性の高い結核

肺結核や喉頭結核のうち、咳や痰などの症状があり痰の検査で結核菌が顕微鏡で見ただけでも見つかる場合です。人に感染させるおそれがあるため、強制的な入院治療が必要になります。

## DOTS（直接服薬確認療法）とは？



一人ひとりに合わせた方法で、服薬確認を行う服薬支援をDOTSといいます。

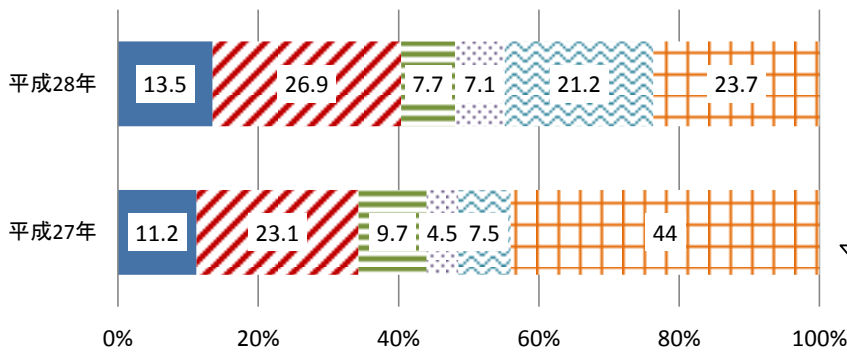
結核は服薬開始後、2週間～1か月経過すると症状が改善されますが、自覚症状がなくなったからと服薬を中断することは危険です。最低でも6か月～9か月間の服薬が必要ですが、服薬を中断したり不規則になると、体の中に生き残った結核菌が勢いを盛り返し、結核が再び悪化（再発）したり薬が効かない菌（薬剤耐性菌）が増えてしまいます。そこで確実に抗結核薬を服薬することが大切です。

患者の重症化予防だけでなく、薬剤耐性結核をつくらず、周りの人を結核から守るためにも治療完了率を高めることが結核対策では重要です。

## それぞれの方に合わせたDOTS方法

## 結核・潜在性結核患者のDOTS方法別割合

■入院・施設 ■来所（面接） ■訪問 ■薬局 ■空袋郵送 ■電話・メール



入院・施設以外のDOTSでは、患者と保健所との相談により、個々の状況に合わせた服薬支援を行っています。

「入院・施設」「来所（面接）」「訪問」「薬局」については、実際に患者と対面で行います。

「空袋郵送」は、服薬した薬の空袋を郵送してもらい錠数を確認する方法です。

前年に比べ「電話・メール」での割合が減少しています。平成28年度から支援員による訪問DOTSの導入も開始され、より確実に服薬確認ができる方法が増加しています。

## 多機関の協力を得ながらDOTSを実施しています！

【事例紹介】80代女性 療養型の病院で毎日DOTS

高齢の妹との二人暮らしだったため、在宅での生活が厳しくなり、結核専門病院から転院。

病院が服薬ノートを引き続き活用して毎日DOTSを継続してくれています。保健所は月に1回、病院へ状況確認のための連絡をし地域でサポートしています。関係機関のご協力を得て、服薬支援をしています。



## 関係機関の皆様へ・・・

## 医療機関の方へ

診断の遅れをなくすることが重要です。職場の定期健診から結核が発見される若い肺結核患者が増えています。呼吸器症状のある患者が受診された際は、職場健診等の直近の胸部X線検査結果の確認をお願いします。過去に健診結果で胸部X線検査の所見があった場合は、喀痰、胸部X線検査の実施または、呼吸器科へ紹介することが、早期発見・早期治療につながります。

## 地域の関係者の方へ

保健所は、高齢者世帯や他疾患のある患者、服薬支援者のない患者を中心に薬局や在宅の介護サービス事業所などの協力を得てDOTSを行っています。また、就労や通学で日中保健所の支援を受けることが困難な若い世代は、薬局DOTSを導入することが多くなっています。

今後、介護サービスを利用されていない患者等については、DOTS支援員の充実などを検討し、最後まで服薬が完了できるように、地域の様々な関係者の協力を得ながら支援していきたいと思っております。

関係機関のみならず、より一層連携を強化していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。